



No. 127 2021. 10. 1

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU
明石市教育委員会事務局学校教育課 コミスク TwitterQR



“Most Likely to Succeed” 上映会が開催されました



9月22日(水)に朝霧小学校で“Most Likely to Succeed”という、現在のイノベティブな世界において機能しづらくなった従来型の教育が持つ課題を明らかにする教育ドキュメンタリー映画の上映会が開催されました。

朝霧小学校は昨年まで国語科を通して「主体的・対話的で深い学び」が実現できる単元学習の創造をめざした研究に取り組まれてきました。今年度はこれまでの研究をより新しい時代の教育を視野に入れた研究に発展させ、「社会とつながり、探究し続け、自己を高めていく児童の育成」をテーマに、「～朝霧流プロジェクト型学習を通して～」というサブテーマを設定して、未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む学びを創造しようと新たな研究の一步を踏み出されました。朝霧小学校は未来を生きる子どもたちにとって必要な資質・能力として“非認知的能力”に焦点をあて、“非認知的能力”が育つ環境を創り出すプロジェクトにチーム朝霧として取り組まれています。今回はその一環として教職員だけでなくチーム朝霧を本当のチーム朝霧にするために、保護者や地域の方(学校運営協議会委員さんを中心に)にも参加していただくこの上映会を計画されました。

本作品を鑑賞する意義として本作品の日本窓口になっている“一般社団法人 FutureEdu”の資料には次のように書かれています。

○世の中は今までにないスピードで変化している = VUCA の時代

(VUCAとは: Volatility (変動)、Uncertainty (不確実)、Complexity (複雑)、Ambiguity (曖昧)の頭文字をつなげた造語。現在の社会経済環境がきわめて予測困難な状況に直面しているという時代認識を表す言葉。)

- ・人工知能、ロボット、ビッグデータの急激な成長
- ・超高齢化社会の到来による社会保障制度の崩壊
- ・民主主義の行き詰まり (Post トランプ時代)
- ・SDGs に見られる、多くの地球規模の課題

○一方で、教育制度は工業化社会に合わせたモデルから大きく変わっていない。

○今の子供達が大人になるときに、イキイキと活躍するためには、どのような学びの環境が必要なのか?を学校任せにせず、親御さんや社会の大人たちが考え、行動することが求められている。

「今の子供達が大人になるときに、イキイキと活躍するためには、どのような学びの環境が必要なのか?」という問いについて各コミュニティで対話するためのヒントが詰まった作品

だから今も“FutureEdu”自身で上映会を開催するだけでなく、広く開催を呼びかけ、未来を見すえた教育をデザインするための種をまかれています

この作品には、アメリカも強烈な学歴社会でいい大学に入ることが成功につながり、そのためにいい点をとる教育を求めるアメリカの保護者・子どもの姿があり、また現実の社会状況からそうした学歴重視に対する疑問等保護者や子どもの葛藤が描かれています。

OUR SCHOOL SYSTEM WAS DESIGNED IN 1893.

アメリカでは 20 世紀を通じて国の経済が伸びれば、一人当たり平均所得も伸び、読み書き計算が出来れば、普通の仕事につき、平均的な家庭を持つことができ、大学で学位をとれば豊かな生活が約束されるとい

う時代が続きました。まさしく日本の高度経済成長期とダブってきます。しかし、1990 年代後半から GDP が成長しても国民の平均所得が伸びなくなり、多くの仕事がコンピューターに置き換わり、人を雇用しなくても国の経済力が伸びるようになり、多くの大学生が卒業時に多額の教育ローンを抱え、無職か大卒ではなくても出来る仕事に就く者が半数に上るとい

う現実に直面しています。オックスフォード大学オズボーン准教授たちが 2014 年に“20 年後までに人類の仕事の約 50%が人工知能ないし機械によってかわられる”と予測を出す以前からアメリカではそのことに直面していたんですね。この映画は新しい教育を提案するものではなく、子どもたちの“今”と“未来”のために何が大切なのかを熟議するきっかけとなり、それぞれの学校やコミュニティにあったモデルを教職員、保護者、地域住民そして子どもが当事者としてデザインしていくことの必要性を投げかけています。この映画の“現時点では未知の仕事にいずれつき、我々が想像できないほど複雑な世の中の難問を解決するよう求められる時代を生きる子どもたちに対して、教育は子どもたちがそうした社会へ出ていく準備をしているだろうか”という問題提起には重みがあり、しっかりと受け止めていきたいですね。

朝霧小学校のように保護者の方も地域の方もチーム朝霧として同じ土俵で、未来を生きる子どもたちにとって必要な資質・能力が今の教室での勉強で育むことができるのかといった対話を始めようとされています。それがコミュニティ・スクールの役割だと考えます。そんな対話が明石の中で広まっていけばいいなと思います。

こんなことを考えるきっかけをくださった朝霧小学校さん、ありがとうございました。

未来を生きる子どもたちにとって必要な資質・能力として“非認知的能力（ソフトスキル）”に焦点をあて、取組まれている朝霧小学校の先生方は映画の舞台である「ハイテックハイ」のソフトスキルを育む学びに興味を持たれたような感想を持たれています。

- 社会で通用するソフトスキルを身に付けるには従来の教育では限界がある。
- 数年先の未来において、平均的な仕事はなくなる。
- 従来の講義型の授業では本当の意味での学力は身につかない（テストが終わるとすぐ忘れる）が、身についたソフトスキルはなくなる。
- ただ暗記するだけではなく、非認知能力を身に付けることで、子どもにこれから生きていく上の必要な力を身に付けさせる。
- 教師が生徒にかけた「君の判断だ」というシーンが印象的。現在の多くの日本の教育場面では、子どもが選択をすることはあっても、「判断を下す」というところまではできていない。結果、子どもの未来を奪っている。
- 「自分で考えてやるか？すべてを教えられて行動するか？」
- かたまった考えが自然とほぐれて、肩の力が抜けた。
- 教師の完成形をすてるという考え方…子どもに任せることが不安に思い、できないことがあった。

【感想より一部抜粋】

これから朝霧小学校コミュニティ・スクールとしてどんな対話が深まっていくか楽しみです。
(文責：北本)

